

第三者評価結果の公表事項(児童養護施設)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

②評価調査者研修修了番号

SK18205 SK18206 第2006-03号 第2006-05号

③施設の情報

名称：児童養護施設 麦の穂学園		種別：児童養護施設
代表者氏名：横川 聖		定員（利用人数）： 44 名
所在地：岐阜県中津川市千旦林1468-51		
TEL：0573-68-2168		ホームページ：http://www.muginoho-gifu.com
【施設の概要】		
開設年月日 昭和53年11月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 カトリック名古屋教区報恩会		
職員数	常勤職員： 30 名	非常勤職員 9 名
有資格 職員数	（資格の名称） 名	
	教員・保育士 23 名	保育士 2 名
	心理士 2 名	栄養士 1 名
	栄養士 1 名	調理師 1 名
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	本園	
	1F 相部屋3室 個室1室	食堂 ホール 厨房 風呂(2)
	2F 相部屋3室 個室7室	トイレ(各階) 談話室(各階)
	3F 相部屋3室 個室1室	洗濯室 乾燥室
	地域小規模	
	相部屋3室 個室5室	リビング ダイニング キッチン
		風呂 トイレ(2)
	施設内小グループ	
	2F 相部屋1室 個室4室	リビング ダイニング キッチン
		風呂 トイレ(2)

④理念・基本方針

(理 念)

隣人愛 すべての人々を大切にする

(基本方針)

カトリック精神である「隣人愛」(全ての人を大切にする)の理念の下、に基づき、「子どもが大切にされたと感じられる養育」を目指し、子どもが安心して生活できるようにつとめる。子どもが愛情と温かいふれあいを通して自己肯定感を育み、子ども自らが未来を創る担い手となるよう養育・教育・療育を実践する。

⑤施設の特徴的な取組

- ・子どもたちの体験、能力、チームワーク等が広がること、また、卒園生や地域、ボランティア等の人との交流を深めることにより、人としての豊かさを積み重ねられるように、法人内の乳児院、子ども家庭支援センターと連携をとりながら、スポーツ大会やお楽しみ会やキャンプ等の行事を一緒に取り組んでいる。また「子どもの育ちをつなぐ」ために、協力してライフストーリーワーク(生い立ちの振り返り)をおこなうこともある。
- ・子どもの養育においては、愛情と共感をベースにした職員と子どもと一緒に取り組む事を大切にしている。
- ・地域との連携においては、地域行事への積極的な参加、地域役員としての活動、市町村からのショートステイの受け入れなどを行っている。法人内の乳児院、支援センターも参加してお楽しみ会など行事を通して交流を深めている。
- ・小規模化については、ホームが孤立化しないよう連携の在り方を模索しながら徐々に進めている。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間(和暦)	令和5年8月29日(契約日)～ 令和6年3月31日(評価結果確定日)
前回の受審時期 (評価結果確定年度・和暦)	令和 2 年度

⑦総評

◇特に評価の高い点

＜豊かな自然に恵まれ、のびのびと生活ができている。＞

四季折々の自然の変化と木の実、柿、栗等の豊かな自然の恵みがある環境の中で、四季折々の自然を感じながら、子どもたちはのびのびと生活し、豊かな情緒を育んでいる。

＜「性＝生教育」として、正しい知識を得る機会を設けている。＞

他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得るために、外部から専門の研究者を招き、子どもと職員が２日間の時間をかけて研修を行っている。子どもの年齢や発達に応じたカリキュラムで実践できるようにしている。

＜地域に開かれた施設として地域交流を深めている。＞

地域の人々や卒園児を含めた楽しい行事が計画(スポーツ大会、キャンプ、五月会、がまん大会)され、一緒にがんばることで、子ども同士の仲間意識が高まり、また、地域の人々と触れ合うことで社会性が身についている。地域の祭りでは、地域小規模施設の子どもたちが獅子舞の獅子役を演じる等、地域の伝統文化の継承の一端を担い、地域との関係を深めている。

＜職員研修に力を入れている。＞

事業計画の中で、「研修による人材育成」について明記しており、新人向けの職員研修やチューター制度の実施、職員一人ひとりの業務に着目したOJT研修、職員の職位に着目した階層別研修、性教育やライフストーリーワーク等のテーマ別研修等を計画的に実施しており、オンライン研修も取り入れる等、コロナ禍においても研修形態を工夫し、職員の研修機会を充実させている。

◇改善を求められる点

＜建物の老朽化と完全小規模化に向けた取り組みに期待したい。＞

建物の老朽化に伴い、壁の塗り替え等の修繕箇所が多いことにより、職員の作業量が多くなり、増加や完全個室化になっていない現状のため、小規模化に向けての取り組みに期待したい。小規模施設になることで、子どもの居場所ができ、精神的にも落ち着き、職員も子どもの養育支援に集中できるため、養育の質の向上につながると思われる。

＜マニュアルや記録物の系統的な整理、文書化が望まれる。＞

子どもの養育・支援については、職員チーム一丸となり、情熱を持ってエビデンスに基づいた実践を行っているが、いくつかのマニュアル類は整備の途上段階であるので、各種マニュアルについて系統的な整理や文書化について、今後の課題となっている。今後、系統的な整備に向けた取り組みに期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回の社会的養護関係施設の第三者評価の受審作業を通して、気づきを得られた。当施設の課題に取り組み、養育・支援の質の向上を目指して、さらなる取り組みを進めていきたい。

また社会的養護関係施設制度動向を注視しながら、現代社会において児童養護施設に求められるものが何かを法人内で検討し、再確認しながら取り組みを深めていきたい。

⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。